

女性の義とはなにか



祖母の言葉

一



おなごがでたらめになれば
世の中がでたらめになります

女は良質な大地となれ

「おなごは大地のようなもの」

物心つくかつかないかのうちから、祖母は幾度となく父親からこの言葉を聞かされました。

「父上は少年時代に御一新を経験しましたからの。あの動乱の際にあって、父の母上であり私にとってのばばさまが、どれほどしゃんとして覚悟の程も立派であったか、よほど心に残ったとみえて語りぐさだったのですよ。ばばさまが揺るぎない大地のようであったと」

北上する新政府軍を迎え撃つために、あたかも戦国の世が戻ってきたかのような戦支度で出かけていく男たち。幼少だった曾祖父は母親と共に父と二人の兄を見送ったのです。

その時の状況を語る曾祖父の様子を、祖母は声真似を交えて再現してみせるのでした。「その際の、母じやの見事なことよ。どっしりと構えて笑顔さえ浮かべておった。そんなことがあってから、わしはおなごというのは大地のようなものだと思おうようになった。大黒柱というが、しっかりした良い大地であらねば立っていられるわけがあるまい。一家の大黒柱を受けとめて、その大黒柱を堂々たらしめんのは、おなごにかかっておる。それをよう憶えておくのであるぞ。大地とならんために学び、おのれを鍛錬するのだ」
このようなことを娘時代に聞かされたりすれば、重圧に負けてしまいそうになるのだ